

東日本大震災から11年 福島県双葉町を想う



2021年12月、京丹波町情報センターのみなさんと、福島県双葉町を訪問しました。特別に許可を得て、立ち入り禁止エリアのなかを視察しました。津波に打ちぬかれた「マリンハウスふたば」(写真・左)の時計は、津波到達時刻を指したままで止まっていました。双葉南小学校には、児童たちのランドセルが、そのまま残されていました(写真・中央)。そして、黒板をみると、3月11日の日付のまま(写真・右)。卒業式を無事迎えることができなかった6年生たちは、すでに成人しています。



京丹波町のみなさんにはおなじみの「だるま折り紙」(復興のシンボルのだるまを千羽鶴のかわりに折ってメッセージを添えたもの)を、双葉町の婦人会のみなさんと一緒につくりました。作品はいま、JR双葉駅構内で展示しています。双葉町では、本格的な帰還に向けた「準備宿泊」が今年1月から始まっています。双葉駅からほど近いエリアには、震災伝承館やビジネスホテルもオープンしています。友好町の双葉町は、一步一步、未来に向かって歩んでいこうとしています。